

令和5年度

重要文化財

だいにちやま

和歌山県大日山 35号墳出土品の保存修理

和歌山県立紀伊風土記の丘では、重要文化財和歌山県大日山 35号墳出土品の埴輪及び須恵器の保存・活用をおこなっています。

これらの出土品の一部では、今後の適切な保存と活用のために、令和4年度より順次、抜本的な修理をおこなう保存修理事業を実施しています。

和歌山県大日山 35号墳出土品（平成28年8月17日指定）

特別史跡岩橋千塚古墳群に所在する県内最大級の前方後円墳大日山 35号墳（6世紀前半に築造）から出土した埴輪と須恵器の一括資料です。

特に埴輪は多種多量であり、両面に顔を持つ人物埴輪、翼を広げた鳥形埴輪、胡籙形埴輪などの類例が非常に少ない希少な埴輪です。古墳墳丘上で行われた儀礼の実態を考えるうえでも、重要な資料と考えられます。なお、大日山 35号墳の現地は、墳丘の一部の整備により埴輪のレプリカを設置し、築造当時の状況を復元しています。



両面人物埴輪 *写真は同一個体の各面



須恵器 甕・大甕

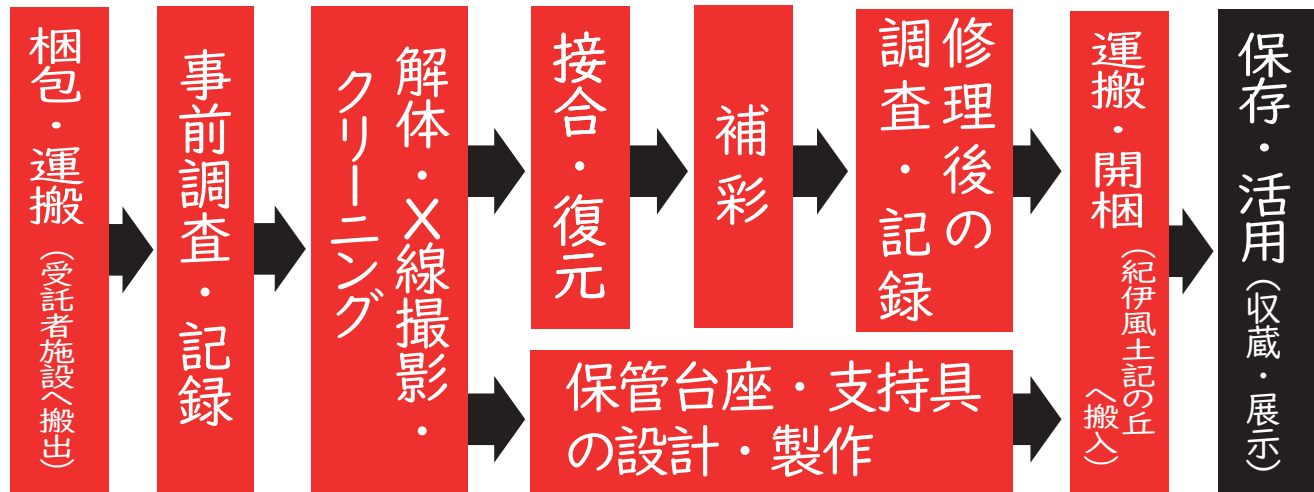


大日山 35号墳東造り出し現状

※ 3分割焼成の家形埴輪、胡籙形埴輪は、保存修理のため令和6年度末まで公開していません。

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 TEL 073-471-6123 FAX 073-471-6120
HP/www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp Email/kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp



保存修理事業の流れ

令和4～6年度の三か年をかけて、3分割焼成の家形埴輪、胡籛形埴輪の保存修理事業を実施します。

令和5年度は資料の接合と復元（部分）、保管台座・支持具の設計を行いました。令和6年度は、復元と補彩（補修材の着色）、保管台座・支持具の製作を行い、修理の完了した埴輪を紀伊風土記の丘へ搬入して再び保存・活用を図る予定です。



解体（3分割焼成の家形埴輪 [高床部]）



解体（胡籛形埴輪）

令和4年度に解体した資料について、破片の接合関係を精査し再検討を行いました。



接合（3分割焼成の家形埴輪 [身舎]）



接合（3分割焼成の家形埴輪 [下屋根]）

接合関係の再検討結果をもとに、接着剤を用いて破片の接合を行いました。接合は、クランプや布製のベルトなどの補助具で破片を支えながら慎重に行います。



復元（部分）（胡籛形埴輪）



復元（部分）（3分割焼成の家形埴輪）

全体の形状を確認しながら復元を進めていきます。3分割焼成の家形埴輪は、上屋根、下屋根と身舎（もや）、高床と基部から構成されるため、各々の向きや復元高などを検討しながら実施しています。

写真提供（公財）元興寺文化財研究所

令和5年度の保存修理